

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900034		
法人名	医療法人社団 恵慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム日下部		
所在地	千葉県香取市府馬3490-1		
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町村受理日	平成30年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間を通じて季節行事を計画し、花見や果物狩り、お楽しみ外出を計画し気分転換していただいております。また地域の行事に参加したり、地区の子供会との交流が年々盛んになっています。ボランティアの方も増えており、定期的に音楽演奏や体操に来所され一緒に身体を動かし楽しんでます。11月には香取市で三ヶ所めとなる山田地区で認知症カフェ(くさかべカフェ)をオープンし和やかに行われました。これから、毎月第三土曜日に開催します。地域のみなさんと一緒に気軽に立ち寄っていただける、温かいカフェを作っていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人恵慈会が運営しているグループホームで、小規模多機能居宅型介護施設が同一建物内にあるため、利用者同士の交流が図られ、近くに医療機関と介護老人保健施設を運営している。お互いの施設が会議等で情報交換をおこないながら支援のあり方を検討している。ボランティアの活用ばかりでなく、地域・小学校との連携・交流し、広報誌「くさかべホーム通信」を閲覧板を使って情報発信したり、本年度より地区の誰でもが立ち寄れる認知症カフェをオープンし情報発信したりしている。子ども会の夏の行事は施設広場でおこない、利用者と子ども保護者そして家族との交流も図られている。避難訓練時は近くの6世帯と提携を結び、職員と一緒に訓練しながら、地域交流が図られている。職員研修は現場に合わせた内容を考えて実施し、職員のレベルアップに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を窓口に掲示し、研修等でも取り上げ共有し、実践につなげている。	法人の理念を基に職員で話し合い、グループホーム独自の分かりやすい目標を作成し玄関に掲示されている。	リーフレット等にも具現化目標の記載を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事等に参加したり、小学校の児童が総合学習の一環として来所されたり運動会の見学に利用者が行ったり、夏休みに地区子供会との交流が恒例となっている。	年3~4回発行している「くさかべホーム通信」を町内会の回覧板を使って情報発信をしている。近くの小学校の運動会等の行事に参加している。また、小学生の訪問もある。地区児童会の夏行事は施設の広場を開放しているので、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一ヶ月おきに通信を発行しホームの中の様子を回覧や役所等の窓口におき地域の方にお知らせしている。また、相談等は随時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会議を開き、利用状況や活動報告、ヒヤリハット事例を報告し、メンバーの方から貴重なご意見をいただきサービスに反映している。	運営推進会議は市役所・地域代表・家族代表で構成され、年6回開催している。開催時に実践現場をみていただいているので、施設理解につながっている。	年6回の運営推進会議が形式的になりがちで、家族にも順番ではなく、なるべく全ての家族が参加出来る配慮等や事前に議題をきめ「例 認知症について等」話し合う事で、より施設理解を深めることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が主催している研修に参加している。地域密着型サービス連絡会に参加し情報交換を行ったり、市の職員より介護保険の動向についての説明を受けている。	隣接して小規模多機能型居宅介護施設があるため、常日頃から市と密接に連携し、協力関係を築いている。市が主催している会議等には全て参加し、その内容を職員に報告し、共有しながらサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ただし玄関は防犯のため施錠しているが、家族や職員の付き添いのもと外出や散歩に出かけたりしている。	マニュアルが整備され、月1回開催している研修会後のミニ講習会は、当番職員が年数回とりあげ研修を実施しお互いの理解が深まっている。マナー研修もおこなわれ、言葉での暴力の皆無を図っている。利用者1名が安全のためセンサーを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止を学び、利用者の身体に異常がないか、言葉での虐待はないか職員間で報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で取り上げ、必要と思われる利用者がいれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時・改定時には十分な説明を行い、ご理解して頂いてから契約している。疑問などあれば詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段、利用者の家族から出る意見や要望を運営に反映させている。運営会議等で報告している。	家族が面会に来た時等の帰り際を利用し、日常の様子等を報告しながら、意見や要望を聞いてサービス向上を図っている。毎月1回家族に状況報告を兼ねた手紙を送付している。玄関に「意見箱」が設置されている。	玄関に設置されている意見箱の上にも、外部苦情相談窓口の電話番号の掲示を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、理念や行事、シフト、ケアの仕方について、その都度意見や提案を聞いている。また、月に1回ミーティングを開催し、意見を述べる機会を設け、共有している。	月一回のミーティングを行いほぼ全ての職員が出席し、意見が出せるようにしている。又、管理者に都度意見や提案を聞いてくれる環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の努力や実績、勤務状況を把握するよう人事考課を行っている。年度末に管理者が職員と個別面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画を立て、実施している。また、外部研修へも積極的に参加している。管理者等は日々のケアの中で、職員の力量を把握し、個別に指導・助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び介護支援専門員は、市の地域密着型サービス連絡会やネットワーク会議等に参加している。職員も市や県立病院主催の研修会に参加する等、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とゆったり話す時間を設け、また入居前の居宅介護支援事業所や病院からも情報を得ている。コミュニケーションを密にとり、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時からご家族の気持ちに傾聴し、入居後は面会時等に日々の様子をお知らせする等、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聞き、必要があれば他のサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と話をしたり、出来るだけ多く関わりを持ち、家事作業を入居者の状況を見ながら共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告書に写真を載せホームでの様子を家族へお知らせし、また面会のときも随時伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等、自由にでき知人や友人が訪問された際は居室でゆっくりと過ごしていただいている。	馴染みの方が訪問する場合、施設の構造上居室で過ごしている。職員は側面から、細かな心遣いをしている。家族に本人から年賀状を出したりしている。墓参りや年一回はお楽しみ外出として本人が好きな所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し職員が間に入りながら一人ひとりが孤立せずに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居されても、入院先へ面会し状態を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと関わり、会話の中の言葉や表情から本人の思いを把握できるように努めている。	入所前に本人や家族と話し合った情報は記録され、それを全職員が共有している。そして、日常の会話や様子から、思いや意向をくみ取りながら、本人本位の支援のあり方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや趣味や楽しみなど本人や家族に聞き把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護支援経過の記録や、申し送り、申し送りノートで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々に毎月モニタリングをし、状態等の変化があればカンファレンスを開催し介護計画を見直している。	毎日おこなっているバイタルチェック、排尿・排便チェック、睡眠チェック等をもとに毎月カンファレンスを開催し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を介護支援経過に記録し、申し送りやミーティングで情報を共有しケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や状況に合わせて、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを定期的に受け入れ楽しませてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関に受診している。病院への付き添いは家族が行っているが家族の付き添いが難しい場合は職員が行っている。	かかりつけ医の受診は基本的に家族の付き添いをお願いしている。付き添いが困難な場合は職員が付き添いをしている。歯科は近くの歯科医へ協力してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化等は看護職員に報告・相談している。また、不在時は看護ノートへ記入し伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護サマリーを作成し情報提供に努めている。入院中も面会時や電話で、ソーシャルワーカー等と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に関する指針を示し、説明・同意を利用者や家族から頂いている。終末期についての研修も開催している。	入居時に重度化時の説明をし同意してもらっており、終末期ケアは1例あったが、今の体制では困難が生じると思われる。内部研修はおこなわれているが、看取りへの研修はまだ初期段階である。	母体である医療機関や近隣の医療機関との連携体制を構築しながらチームで支援に取り組む体制づくりを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について、研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災避難訓練を実施している。12月は夜間を想定し、近隣住民の協力のもと行っている。地域住民との間に連携に関する協定を結び、非常災害時等の緊急連絡網を作成している。	警報装置は消防署へ直接連絡が入るシステムである。近隣住民も避難訓練時に参加し、その補助活動をおこなっている。非常食は3日分備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った声掛けや対応を行っている。	全職員で作成したグループホーム目標を達成するため、所内研修の充実を図っている。特にマナー研修をおこなう事で、人格の尊重と各利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、本人の思いや希望を聞き取り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな化粧品や、整髪剤を使って身だしなみを整えたり、外出時の衣類を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は調理職員が行っている。食事前後のテーブル拭きや配膳下膳等、出来ることを行って頂くようにしている。また定期的に調理レクを行い利用者とともにおやつ作りを行っている。	食事は調理室で調理され、ホームの調理室で盛りつけている。職員も一緒に食事をし、利用者の状態を直に見ている。話をしながら楽しい食事にするようにしている。配膳やテーブル拭き等はできる利用者がおこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、把握している。摂取不良・体調不良時等は形態やメニューの変更し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施の声掛けと誘導、援助を行っている。また内部研修でとり上げ口腔ケアを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々の排泄パターンを把握している。出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄の自立支援のため、排泄チェック表を利用して声かけをしながら、オムツの使用量を減らすよう支援している。居室での簡易トイレを設置し利用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やスムージーを提供し便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数、入浴日は決まっているが、本人の希望や体調等に合わせて柔軟に対応している。	入浴は週2回が基本だが、要望や状況により増やすことができる。グループホームの浴室は一般的な浴室なので隣接している小規模多機能型介護施設の機械浴ができる浴室を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息していただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用、用法・用量についてはファイリングし確認出来るようにしている。処方の変更や臨時薬については申し送りノートに記載し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、テーブル拭きや盛りつけの手伝いなどを一緒に行っている。また花植えを職員とともにいき気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩やテラスでの日光浴を行ったり、本人の希望に添って家族に協力していただき外出出来るよう支援している。また定期的に外出行事を行っている。	外出行事は月に1回行っており、年1回はお楽しみ外出として、好きな所(買い物・外泊・墓参り等)は家族の協力支援を受けながらおこなっているが、家族の都合がつかない場合は職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお小遣いの管理を行っているが、本人の希望があり管理できる範囲で所持していただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、家族や友人に電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、環境整備を行っている。また、季節の花を玄関やテラスに植え季節を感じていただいている。	玄関には季節の物を飾り、フローアーには利用者や共同作品のものがある。通路には物を置かず転倒予防に配慮している。隣接する小規模多機能居宅介護施設との仕切りとして、大きな和室があり、お互いの施設を間仕切りすることもできるが、解放することで、お互いの生活雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファーやテーブル等でテレビを観たり、居室に行ったり自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の写真を飾ったり、余暇活動で作った作品を飾ったりし工夫している。	居室は衛生面からフローリング床になっているが、希望により畳を敷き、布団での就寝もできる、現在は低床ベッドの利用者が1名いる。家族の写真が置いてある方もいる。	全体的に同じような部屋でしたので、もう少し居室に本人らしさを出せる工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、適切な場所に手摺りが設置され、トイレにはトイレの表示をしわかりやすく安全に移動できるようになっている。		